

本編の閲覧方法

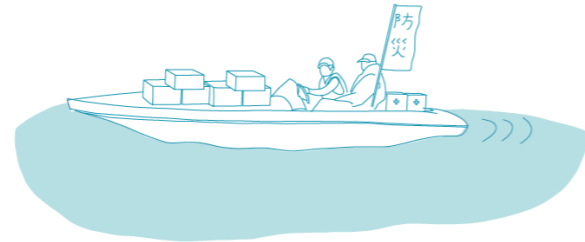
①ホームページでの閲覧

横浜市都市整備局関内関外事業推進課 市民意見募集WEBページ
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/kannaikangai/kasen/mizubevision.html>



②紙面での閲覧

- 【市庁舎】
- ・市民情報センター(3階)
 - ・都市整備局関内関外事業推進課(22階)
- 【区役所(18区)】
- ・区政推進課広報相談係



意見の応募方法

募集期間：令和8年6月5日(金) から 7月6日(月) まで

①横浜市電子申請・届出システム

横浜市電子申請・届出システムのオンライン入力フォームへアクセスし、ご入力ください。



②電子メール、FAX、郵送

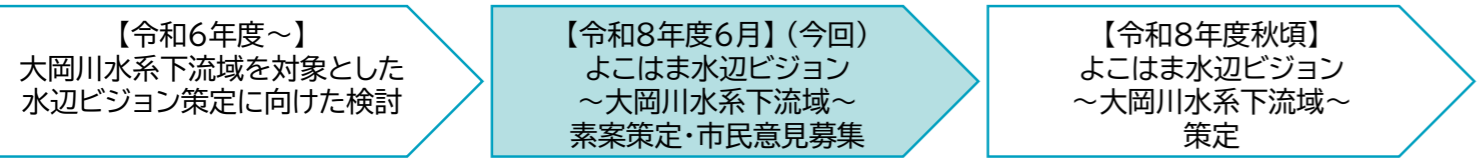
年代、住所(居住区まで)、「よこはま水辺ビジョン～大岡川水系下流域～」へのご意見を記載いただき、お送りください。書式は問いません。

【送付先】

電子メール:tb-mizube@city.yokohama.lg.jp
 FAX: 045-664-3551
 郵 送:〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
 横浜市都市整備局関内関外事業推進課 水辺ビジョン担当 宛
 (令和8年7月6日消印有効)



今後のスケジュール(予定)



横浜市都市整備局関内関外事業推進課
 令和8年6月作成
 TEL :045-671-4247
 FAX :045-664-3551
 MAIL:tb-mizube@city.yokohama.lg.jp

- 「お電話やご来庁でのご意見の受付」及び「ご意見への個別の回答」はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ご意見の提出に伴い取得した個人情報は「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適正に管理し、ご意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。
- 頂いたご意見は、公表させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

みんなの/
よこはま水辺ビジョン
 ～大岡川水系下流域～

みなさんのご意見をお聞かせください

意見募集期間:令和8年6月5日(金) から 令和8年7月6日(月)まで

ビジョン策定の経緯

大岡川水系下流域では、「大岡川河川再生計画」に基づき、川とまちが身近につながる水辺づくりを進めてきました。棧橋や遊歩道などの整備が進み、水辺でのイベントやSUP・カヌーなどの活動が増え、安心して楽しく使える川として親しまれるようになってきました。こうした流れを大切にしながら、地域・事業者・行政と一緒に、より魅力的な水辺を育て、エリア全体の活性化につなげていくために、「よこはま水辺ビジョン～大岡川水系下流域～」をつくります。本ビジョンを通して、大岡川水系下流域の水辺が目指す方向を共有し、この場所ならではの魅力を広く発信していきます。

対象エリア



／ビジョン／

水辺からまちを豊かに

港町横浜の発展を支えてきた河川は、時代とともに役割を変えながら、今もなお、都市部に残る貴重な水辺空間として、まちの骨格であり続けています。この歴史ある水辺空間の魅力を磨き上げ、新たな価値を創出することで、まちに潤いと賑わいを広げ、エリア全体の活性化につなげていきます。

目指す水辺の姿

自然が息づく
心やすらぐ水辺



都市部でありながら、自然を感じつつ散策や休憩などの心やすらぐ時間を過ごせる水辺。

川を渡る風や潮の満ち引き、水生生物、桜をはじめとする川沿いの草木など、四季折々の自然にふれながら、やすらぎと潤いを感じることができる環境を育てます。

まちにいながら
川を感じられる水辺



川面に映る光や川風を感じたり、ライトアップされた橋を眺めながら、カフェやレストランなどの沿川の施設で楽しいひとときを過ごせる水辺。

人々の営みがまちから水辺へと広がることで、新たな社会的・文化的価値を持つ水辺空間がカタチづけられます。

水上で心躍る体験が
できる水辺



SUPやカヌーなどのアクティビティをはじめ、水とふれあえる心躍る体験ができる水辺。

多彩なまちの表情を楽しみながら、水との一体感を味わえる、横浜のこの場所ならではの体験の機会を広げていきます。

船に乗ることが
身近な水辺



観光や移動などで気軽に川で船に乗ることができ、移動そのものを楽しめる環境が身近にある水辺。

人と人、まちとまちの交流を広げ、エリア全体の活性化に貢献します。さらに、港湾エリアへとつながる航路の開拓や、羽田や三浦、富津など遠方の拠点との交流も広がっていきます。

週末に
出かけたい水辺



四季を通じて、オープンカフェやマルシェ、アートイベントなど、まちの個性を映す多彩な催しが開かれ、わざわざ足を運びたい水辺。

人々が集まり、つながり、交流することで、水辺に活気が生まれ、まちの魅力が高まっています。

災害時に
役立つ水辺



災害時に、地域の防災拠点としての役割を果たす水辺。

各水辺の拠点は、船舶による物資輸送や炊き出しなど、災害時に地域で活用することが想定されています。日頃から防災訓練やイベントを通じて水辺の拠点を活用し、地域の防災力を高めておくことが重要です。

みんなで取り組むための基本姿勢

- 01 多様な主体の参加機会を創出する（ウェルカム）
立場や背景を超えて、「やりたい」と思うことに挑戦できる環境づくりに努め、対話を通じて協働する姿勢を大切にします。
- 02 まちの歴史と個性を尊重する（ローカルティ）
地域に根ざした歴史を尊重し、それぞれのエリアが持つ固有の魅力を活かしながら、水辺のまちづくりを進めます。
- 03 チャレンジ精神を大切にする（チャレンジ）
柔軟な発想と挑戦する姿勢を大切に、実践から得られた学びを活かしながら、取組を着実に前進させていきます。
- 04 訪れる人や利用する人の目線を大切にする（ユーザー視点）
ユーザーが楽しむこと、ワクワクすること、癒されることなどを目指して取り組んでいきます。
- 05 自然環境を守り、癒しの空間としての水辺を大切にする（環境・リゾート）
水質浄化や清掃活動などを通じて都市の中の貴重な自然を守り、地域の人々に親しまれるうおいある癒しの空間を育てていきます。
- 06 誰もが安全・安心に過ごせる水辺を守る（セーフティー）
安全ルールの策定・共有、マナーの醸成等を図り、安全・安心を第一に取組を進めます。



エリア全体の活性化へ